

国際歯科材料会議 2016 (IDMC2016) 報告

2016年11月4日(金)～6日(日)にインドネシア・バリ・レギャンのThe Stones Hotelにて国際歯科材料会議 2016 (International Dental Materials Congress 2016: IDMC2016) が “Dental Materials and Technology to the Next Generation” をテーマに開催された。本会議の開催は、2007年のタイ王国・バンコク、2011年の大韓民国・ソウルに続き5年ぶり3回目の開催となった。本会議には日本をはじめ、インドネシア、中華人民共和国、大韓民国、イラン、オーストラリア、ドイツなどの国々から合計152演題の申込があり、参加者も260名と盛況であった。

大会初日は、開会式にてバリ舞踊の歓迎舞踊である Pendet が披露され、本会議の大会長である Anita Yulianti 先生 (Airlangga University)、歯科理工学会理事長の河合達志先生 (愛知学院大学)、Yosi Eriwati 先生 (Indonesia

University)、Ketut Suardita 先生 (Airlangga University) などの挨拶の後、インドネシアの伝統的な玩具である Otok Tok Tok を会場内全員で盛大に打ち鳴らし、大会が開始された。

1日目は、埴 隆夫先生 (東京医科歯科大学)、遠藤一彦先生 (北海道医療大学)、石川邦夫先生 (九州大学)、Ika Dewi Ana 先生 (Gadjah Mada University)、大久保力廣先生 (鶴見大学) の5名の先生方による招待講演が行われた。また、生体反応7題の口頭発表が行われた。

2日目は今里 聡先生 (大阪大学)、Nina Djustiana 先生 (Padjajaran University)、Bambang Irawan 先生 (University of Indonesia)、米山隆之先生 (日本大学) の4名の先生方による招待講演が行われた。ランチョンセミナーとして北海道医療大学の伊藤修一先生による特別講演が、株式会社松風の提供により行われた。また、リン酸カルシウム5題、セラミックス6題、コンポジットと歯科用接着材8題とポスター発表116題が行われた。

3日目は臨床応用4題、金属6題の口頭発表が行われた。その後、早川 徹先生 (鶴見大学) と Seno Prado-po 先生 (Airlangga University) の挨拶で閉会となった。



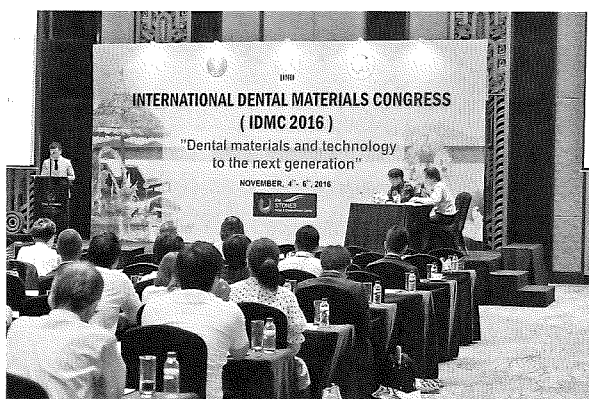
歓迎舞踊 (Pendet)



口頭会場



開会式



1日目 一般口演

11月のバリは雨期であったが、日中は晴れ渡っており瑞々しい青空が広がっていた。会場の西すぐには、南北十数キロのクタビーチが広がっており、この浜辺から眺めるバリの海へと沈みゆく太陽は、瞳に、そして肌に染み込んでゆく神秘的な感覚を生じ、今まで見た夕日の中でも一番格別な光景であった。

本会の開催規模は、前2回に比べコンパクトとなったが、参加者の満足度は極めて高く、海外を含む複数の先

生方より次回開催についての問い合わせを受けた。最後に、IDMC 準備委員会の委員長の早川 徹先生を始め大勢の委員の先生方および Airlangga University のスタッフの方々の御尽力により、また、日本歯科理工学会および関連企業からのご支援ご協力により成功裏に終了できたことに対して感謝の意を表し、本会議の報告とする。

平田伊佐雄

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院生体材料学)



感謝状の授与



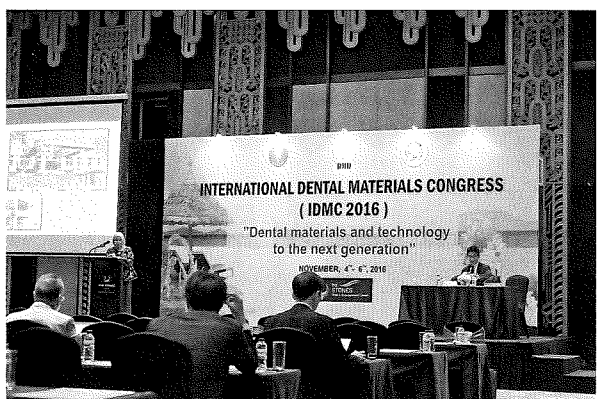
ポスター会場①



懇親会



ポスター会場②



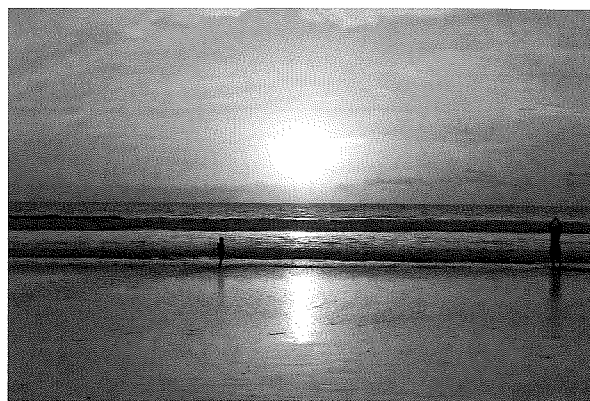
2日目 招待講演



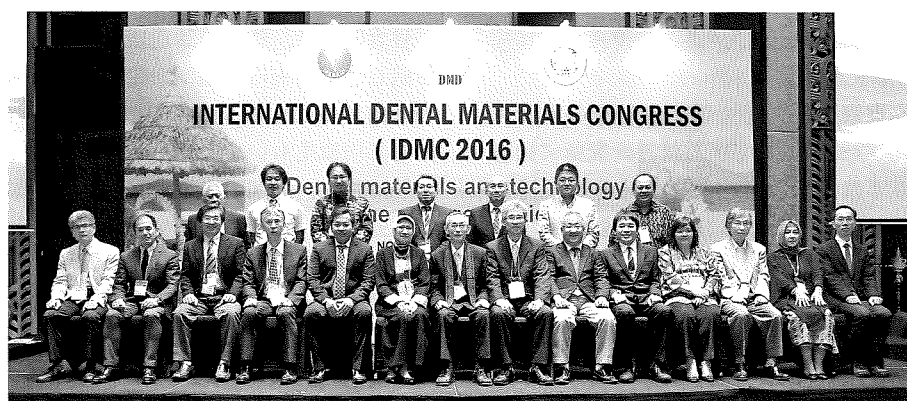
閉会式



現地スタッフの方々



クタビーチ



Commitee member



集合写真